

第1節 「旧熊野古道（+旧西高野街道）」スルーハイク
 ～ [天照大御神・大日如来と私の天地人熊野巡拝行] ～

標記旧古道を正身 2011（平成23）年4月6日（水）伊勢神宮内宮スタート～5月5（木）那智勝浦補陀落山寺ゴールまでを29連泊30日間、ルート沿い計画距離729kmに対する実歩行距離849kmを連続連日歩行で踏破しました。1日平均の実歩行距離は28.3km、同時間8.6時間、同平均時速3.3kmとなりました。もちろん、この期間中に休息日はまったく入っていません。全ルートの概要は図-15のとおりで、足跡を残した通過県は三重県、奈良県、和歌山県、大阪府でした。この



図-15

ルートは「紀伊山地の霊場と参詣道」として、歴史的な建造物だけではなく、「古い山道」そのものがユネスコ世界遺産に登録された古道です。熊野の神仏巡礼の旅そのものでした。ガーミン社製GPSオレゴン機は高価なもの故に思案していたが、ついに購入を決断し、この時初めて携行しました。

1. 「大香ブランド^{RouCon さ}老魂サブタイトル」設定の背景事情

そもそも熊野古道に関心が出たのは、前記「第一章 第3節 『大峰奥駈道』スルーハイク」を歩いた事が切っ掛けとなりました。それも、やるなら同古道の全道を歩いて見たいと思いました。旧熊野古道とは、簡単に要約すると、平安時代から江戸時代までの長きに亘って、上皇（退位した天皇に贈られた尊号）・貴族から庶民まで、熊野権現を祀った「熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社」（総称して熊野三所権現^{いのり}）を目指す参詣の道だったのでした。

(1) スタート日の決断

年が明けた2011（平成23）年は、正月から「旧熊野古道スルーハイク」に夢を馳せながらあれこれと計画を練っておりました。切の良い年度初めの4月1日（金）を現地の歩行スタート日と決めておりました。そうこうしているうちに、同年3月11日（金）14時46分「東北地方太平洋沖地震」（東日本大震災）が発生したのでした。

世の中が騒然となっている中でどうするか、決行すべきか、中止すべきか、毎日思案の連続でした。当初計画スタート日の4月1日前日の3月31日が来ましたが、決断出来ません。1日が過ぎ、また1日が過ぎ、日が立つに連れて悶々とする状態になりました。「そうだ、震災・原発で苦しんでいる人達が沢山いるのだ、謹慎と称してぬくぬくと自宅で黙っているのは返って失礼ではないのか、歩く事で私なりに私の修行道で苦しまなければならないのではないのか」「自らの実践行で苦を共有してこそ、本当の供養ではないのか」「そうだ、身の丈の慰霊・鎮魂の追悼儀式と原発危険啓発のトレイルだ」と一念発起し決行を固めたのです。

それではスタート月日を具体的にいつにするのか、亡くなった（死んだ）人々の供養・慰霊ならば死→四にあやかり四月にする事はこの月を由として、日はどうするのか、私の誕生日は6月6日なので、再生（再誕）をも託し6日としました。合わせて4月6日（水）と決断しました。

(2) 神（しんぼしら=しんちゅう）柱=心軸

それにしてもそのために出来る私の力は微々たるもの、誰か裏方の支援が欲しいと念じたのです。同古道の歴史的背景を調べつつ地図を眺めながらその時に浮かんだのが、「光をもって万物を遍く照らす天照大御神」と「万物の慈母仏たる大日如来」の「神仏」でありました。この「神仏は表裏一体」です。天神地祇・金胎両部曼荼羅界（諸仏）の頂点に君臨する偉大なものを心の芯軸しんじくに据えたいと思いました。真に有難い事だと思いました。

(3) スタート地点

また、800 km超にも及ぶ長い道程みちのりの中でどこをスタート地点・ゴール地点にするのか、こちらの悩みも出て来ました。ルートみちの全貌は図-16のとおりで、どのルートも素晴らしい出会いが期待出来て、出立基点は色々考えられます。その上で、出来るだけルートを一筆書きのように取り、重複トレイルにならないように考えました。「天照大御神」と言えば、この神を主祭神にしている「伊勢神宮（内宮）」です。図-15の「伊勢路」の基点でもあります。そこで、「伊勢神宮（内宮）」をスタート基点とし、全踏破後の翌日に再び同内宮に参拝（お蔭参り）し、無事帰還の報告を行いたいとの気持ちが強まりました。これらを踏まえ、図-15の①→⑧のように決定したのです。

これらの思いがあって、天照大御神・大日如来を先導に天神地祇と共に、靈気充満の紀伊半島大地を、私との3人で、旧熊野古道の全道を巡回・巡拝し、自然や人々の暮らし振りを視察し、交流を図り大いに学ぶと共に、



図-16

東日本大震災亡き人への供養の旅にしよう^{RouCom}と決意し、「大香ブランド老魂サブタイトル」を見出しの「天照大御神・大日如来と私の天地人熊野巡拝行」に設定したのです。

2. 実践で見た全体のルート状況

図-16は、2004（平成16）年7月に「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコ世界遺産に登録された道（ルート）の名称です。この中で「大峯奥^{おおみねおくがけみち}駆道」は、前記のとおり既に歩いていました。

「この大峯奥駆道をスルーハイク出来たのだから、どうしても『熊野古道』だ」と誓っていたのです。そしてこの度、図-16の「大峰奥掛道」以外の伊勢路、小辺路、紀伊路、中辺路、大辺路の主要道全道を歩き通しました。

トレイル前日の4月5日（火）は自宅から鉄道移動し、安全歩行と慰霊の祈願のため伊勢神宮に赴き外宮→（歩き）→内宮の順で参拝しました。翌日4月6日（水）早朝に内宮の宇治橋（東の基点）をスタートし、図-15の計画どおり①～⑧の方向に歩き、那智勝浦町の補陀洛山寺にゴールし、最終的には30日間かけてスルーハイク（踏破）しました。翌日の5月6日（金）は、また同じく、御礼・お陰参りとして、伊勢神宮に戻って、外宮・内宮に赴き、無事を報告し、神仏のご加護に感謝の参拝を行いました。

- 伊勢神宮→花の窟(熊野)→熊野速玉大社→那智勝浦町補陀洛山寺まで――の①～②の『伊勢路』は、幾多の峠を越え、この後半は太平洋を時々望みながらもまた峠を越えました。
- 補陀洛山寺からは90度方角を変えて北西に向かい→熊野那智大社・青岸渡寺→小和瀬（山奥）→熊野本宮大社まで――の③『大雲取越え・小雲取越え』（中辺路の半分）の古道は山上の快適な尾根歩きでした。
- 同本宮大社から高野山へ向かう古道に入り――同大社^{はてなし}→（果無峠：標高約1,000m）→真砂瀬→（三浦峠^{いもぜ}）→五百瀬→（伯母子峠^{おぼこ}）→大股→薄峠→高野山まで――の④『小辺路』は紀伊半島の最深部、熊野古道の最大の難所といわれる幾つもの峠を越えました。道筋には思いも由らぬ残雪がありました。高野山から引き続き、河内長野を経由する『旧西高野街道』を大阪府堺市までを歩いてここを区切点とし、翌日のスタート基点となる大阪市内天満橋近くの宿泊先に向けて移動しました。
- 旧熊野古道大阪基点の天満橋→堺（前日の終点）→泉佐野→布施屋（和歌山市の東に位置）→有田→御坊→紀伊田辺まで――の⑤『紀伊路』は、この前半は平野部、後半は半島部を横切るように峠越えでした。
- 同田辺から→滝尻→十丈峠→近露→（三越峠）→発心門→再び熊野本宮大社――の⑥『中辺路』は、同古道核心部の一つで、ここにも峠越えが幾つもありました。
- 同大社から小雲取越えに少し入り、途中から北東方向に分岐し――（万歳峠^{よろじ}）→楊枝→風伝峠→横垣峠→花の窟(熊野)――の⑦『伊勢本宮道』も山間部の峠越えがありました。ここまでが完全な一筆書き行程となりました。
- 熊野から紀伊田辺に電車移動し、同田辺→富田橋→富田坂→安居の舟渡し場→（長井坂）→（地藏峠）→（八郎峠）→那智勝浦町の補陀洛山寺――の⑧『大辺路』（最後の区切り行程）は、紀伊路と同様に概ね太平洋に沿う古道であり、半島部に突き出るように幾多の峠を越えました。

沢山の峰・峠を越え、車の通れない人だけが通れる細い山道の古道、里を越え・野を越え・山を越え、谷を越え、所々に表れた石畳を歩く古道が貫いていました。途中には登山を強いられるような急峻な所もありました。往時、賑った茶屋・旅籠の跡も沢山ありました。山中では、北日本ではなかなか見られない、温暖多湿な地域の植生と相俟って紀伊半島独特の景色には只々感激するばかりでした。

図-17は、27日目5月2日（月）和歌山県西牟婁郡白浜町「安居の渡し場」です。この写真の対岸（向こう側）までの5分近くです。

図-18は和歌山県新宮市の神倉神社の「ゴドビキ岩」です。

3. 紀伊半島全域が神仏のお住まい

ガイドブックで予め予備知識があったもののとても驚いた事があります。大阪から熊野までには王子社——一つ一つが熊野権現の分身をお祀りしており、沢山あると言う事の意で「九十九王子」と云われています。神社（お社）・仏像（お堂）や小堂宇・小社^{しゃしよく}・祠^{ほこら}等の大小様々な形態があります。——が線上に並ぶように点在しています。また、峰を越える峠には必ずと言って良いほどお地蔵



図-17

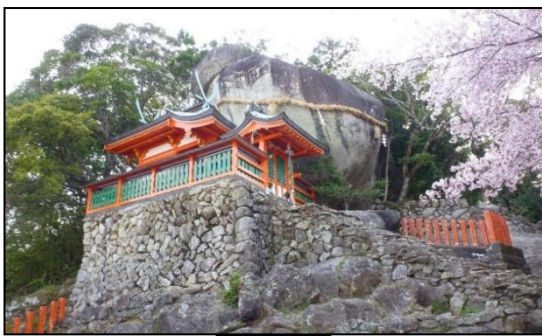


図-18

様等が安置されていました。それら寺社の場所は参詣途上で儀礼を行う場所であり、奉幣（神に供え物を総称する幣帛^{へいはく}を奉げる事）と経供養（般若心経などを読経する事）により神仏混淆的に祀ったのです。それら殆どのお社には、今は神主とか住職はいないが、神仏が生きているような雰囲気があるのです。神様はお得意の祝詞を挙げ、仏様は自慢の般若心経を唱え、双方で合唱し、全域全山に木霊^{こだま}している雰囲気です。あるいは、熊野権現

が分化（分離ではない）して神と仏が現れ、逆に神と仏が統合（融合ではない）して熊野権現となり、眼前の天空に泳いでいるようにも見えるのです。まさに古道そのものが霊場と感じました。十方諸仏・八百万の神々・諸天善神が出没し、対話を授かる場でもありました。

図-19は王子社跡の例です。いずれも山奥の古道沿いです。今となっては、跡地記念としての小さな石碑だけの所もあります。図-20は、いずれも人里を遠く離れた山中の古道に祀られているお堂です。毎日が、天照大御神・大日如来と対話している気分でした。「熊野の神」は、「信不信を選ばず、貴賤男女を問わず、身分の違い、忌^{いみ}、病^{やまい}など問わず」全ての人々を受け入れたのです。したがって、



図-19



図-20

熊野信仰は、「蟻の熊野詣
で」と云われたほど国中の民
を魅了した事から、多数の巡
礼者の中には途中で行き倒れ
となった人もあったと云われ
ています。その無名の人達を
地元の人達が手厚く葬り、そ
の証としての供養塔が点在し
ているのです。熊野本宮大社
以外の熊野三所権現の熊野速

玉大社、熊野那智大社にも参拝しました。西国三十三観音霊場の1番札所の青岸渡寺にももちろん参拝しました。いずれも熊野信仰聖地の代表格です。それらの境内に入ると雰囲気^{雰囲気}が靈性を帯び引き締まる感を覚えました。

全域に神仏の靈魂の波動が充満しており、時には共鳴し、とても清々しい気分になりました。まさに「天地社^{しゃしよくももやそがみ} 稷百八十神」(天地・国家の数えきれない多くの神様)——『日本書紀』欽明天皇13年10月条(552)【崇仏^{RouCon}廃仏論争】——が全山に木霊している雰囲気^{雰囲気}でした。天照大御神・大日如来とこの全域にお住まいの神仏と共に[大香ブランド^{RouCon}老魂サブタイトル]の思いを成し遂げる事が出来て、とても喜ばしい気分になりました。

4. 二人の自分の格闘

ところで、一度だけ、途中で打ち切ろうかと真剣に考えた事がありました。スタート以来25日目の4月30日(土)熊野市の花の窟神社に到着した時です。残っていたのは、田辺から那智勝浦までの太平洋に面した「大辺路^{おおへち}」(図-47⑧、図-48参照)のルートで97kmほどです。これは、全体計画距離729kmの13%ほどでした。体力的には問題なかったのですが、「25日間も歩いたし、もう良いのではないか、目標に対して少しは残っているが、別の機会があるではないか」などと、止める方向の言い訳、弱音・弱気、逃げの姿勢が次々に湧いて来て、何となく精神的に萎えたなあと感じるようになって来ました。それも突然襲って来た感じがしました。しかし、ここで打ち切る事は、覚悟を決めた自分に自分が嘘を着く事となり、情けない人間に落ちぶれてしまうのではないかと思いました。しかし、「やっぱりやめよう」と決断しかかりました。行こうか行くまいか、乱高下大きく揺れ動きました。その時です。私の中に住み着いている「荒魂^{あらかたま}」と言うもう一人の自分が、「馬鹿野郎、何言っているんだ、この弱虫野郎!」とカンカンに怒って来たのです。この「荒魂」は曲者で「苦」を食べていると満足して鎮まっているのです。通常人の常識派である「和魂」と格闘したあげく、「荒魂」が勝ったのです。そして、結局はこのルートも歩き通し、当初目標のとおり踏破し、目的を完遂したのです。正直、結果オーライ、とても良かった、嬉しかったです。

(後日談であるが、本書全てのスルーハイイク14件の中で、進退を極限的に悩んだのはこの1回だけでした。)

5. ハプニング

(1) 1日目2011(H23)年4月6日(水)の朝は初日目、前日泊まった伊勢市中之町の「麻吉旅館」(江戸時代には多くの芸妓を抱えた老舗旅館)の朝でした。スタート地点の伊勢神宮内宮入り口宇治橋ま

では、3 km弱あるためにタクシーを予約していたが、寝坊してしまい、女将さんから起されて、朝食を食べずに宿を出ました、慌てました。しかし、この日は快晴の天候で、次の宿までの距離は46 km（結果的に本件区間最長距離）ほどの長い1日になる予定だった事から、ペースを上げて歩行した結果、ついに夕方には左右の足の指が熱と摩擦で炎症を起こしてしまいました。

(2) 多くの皆さんから大変親切に頂きましたが、ただ一つ困った事がありました。民宿によっては、「1人泊はだめ」とする所が、電話した中で3箇所もありました。複数でも一人でも、電気代、風呂の水などは固定費となり、おそらく複数の方が利益率は高いと言う事でしょうか？あるいは、「昔は、一人旅は自殺願望者がいた」と言う事への警戒心だったのでしょうか？

6. 感激

(1) 30日間の中で雨合羽を着用したのは、5日間で、朝の歩行開始から終了まで丸1日中着用したのは4月23日(土)の1日だけで、この日は本降りであったが、後は小雨模様であり、全体的には良好な天候に恵まれました。

(2) 樹木・森林・山並み・川流れ・谷あい・花の自然、田畑、民家、街並み、古道のどれもが素晴らしい景観でした。各辺路(古道)とも甲乙付け難くそれぞれに趣むきがあり、いずれも貴重な文化遺産です。まさに「世界遺産の道」に相応しい重みと輝きを感じました。苔むした石畳、王子社跡、地蔵などの石碑は良く保存されており、かつ、古道沿いにはごみが殆ど無く、歩く人の高いマナー、地元の人々の心を込めた日頃の手入れ、行政・自治体等の関係機関の目配り(管理)などの賜物と強く感じました。ありがとうございました。

(3) このような美しく・素晴らしい景観に接する中で、1000年以上も前から上皇・貴族・公家や武士・農民・商人・一般庶民が通って来た・歩いて来た路・道だと思えば、悠久のロマンを想像・想起される雰囲気にも包まれ感無量になりました。その事を歩く中で想う時、時には涙もなく幾度となく感涙が流れ出しました。

(4) 歩く事は私の歩幅65cm程の僅かな一歩ですが、その一歩一歩の積み重ねが、野を越え、山・川を越え、峠を越え、町・街を越え、1日の歩きを振り返ると、朝のスタート地点が遙か遠い場所と感じられました。まさに「継続は力なり」「雨垂れ石を穿つ」「千里の道も一歩から」を改めて実体験・実感しました。商売も同じで、「1円を笑うものは1円に泣く」「1億円も1円の積み重ね」「日々1円の積み上げが繁盛の原点」との思いを強くしました。

(5) 我欲を捨てた素晴らしい宿

9日目4月14日(木)「小辺路」を歩いて高野山へ向かう途中「果無峠」にテント泊(図-21)をしたが、このテント場では電話は通信圏外でありました。

翌日10日目の4月15日(金)三浦峠を越えて途中から目当ての民宿岡田に電話連絡した処「満杯だ」と言われました。「今日もテントか」との思いで歩きました。そして15時頃から雨が本降りとなって来たのです。やっと里に下りて、ダメ元・再挑戦の思いで民宿岡田(奈良県十津川村五百瀬)に立ち寄った処、「満杯なのでここは不可、同じ集落にある別の農家民宿

『政所』を紹介する」と、先方に電話を掛けて事情を話してくれた上で親切・丁寧に場所を教えてくれたのです。他所様を紹介するその言葉使いが何とも言えない温かみを感じました。その農家民宿「政所」



図-21

に夕方着いた訳ですが、「先客で満杯であるが、私達の茶の間で良ければ」と言われて、そこにお世話になりました。政所さんは自分達家族の生活を犠牲にして私に譲ってくれたのです。有り難く心底から感謝で一杯になりました。北海道札幌市在住のぶらり旅の4人組（車の運転手役の男性1人と女性3人）と楽しい懇談となりました。

7. 同情しみじみ

4日目4月9日（土）の事です。結果的には尾鷲市三木里の民宿「岡崎屋」に投宿し食事も頂きました。前日、この地区の宿と思える所の3軒に電話問い合わせしたが、2軒は休日と言われ、この民宿も一度は断られていました。しかし、何とかなるだろうと思い、歩みを進め、三木里の地に到着し、小さな公園のベンチに野宿を覚悟していましたが、「当って砕けろ、もう一度！」と言う事で、この民宿に電話し事情を話しました。その時は「食事なしの素泊まりなら良い」と言われて、結果的にはお世話になりました。コンビニもない所なので非常食（ピーナッツ）で繋ぐつもりでした。加えて、足指の炎症に依る痛みが気になってペースが上がらなかった1日でした。結局は、女将さんは自分の夕食を私にも分けてくれました。その年老いた女将さんは、旦那様を十数年前に亡くし（山仕事?）、女手一人で子供（2人?）を育て、今は一人暮らしとの事でした。「ここは海辺の近くなので以前は町の指導があって民宿を始め、大繁盛で大忙しだった、しかし昨今、客は殆んど来ない」と。人生を振り返って「一杯涙を流した、語り尽くせない」と、とつとつと話した表情は今でも忘れません。母性の慈愛の極みを感じました。「女は弱し、されど母は強し」を超越して「母は強し、されど女はさらに強し」そのものでした。

8. 荷物を軽くしたい

テントを12日間も背負い、12日目4月17日（日）に高野山を越えたのですが、足の裏の炎症は回復しないし、荷物の重みも辛くなって、何とかしなくては、と思案した挙句の対策は荷物を少しでも軽くしたいとの思いが出てきました。その上でこれより後は、行程上テントを設営しなければならない場面は無い見通しも立ちました。そこで、この夜、橋本市神野々の温泉宿に入った折り、2kgほどのテント一式を、フロントの若いお兄さんにプレゼントしてしまいました。その数日後、歩いている時にふっと浮かんだのです「挙げないで途中から宅急便で自宅に送れば良かった！」しかしもう遅い。それだけ、疲れから思考停止に陥っていたのです。

9. 後日談の心配事

ところで、この年の8月末から9月初旬にかけて大型の台風12号の影響で河川氾濫や土砂災害が発生し、死者まで出した「紀伊半島大水害」がありました。あそこでお世話になった宿はどうなったのかなあ、被害を免れたのかなあ！あの素晴らしい古道はどうなったのかなあ？がけ崩れ・土砂崩れなどで寸断された個所もあったらうなあ？と思案しております。被害個所の修復にはそれ相当の費用や時間を要する事から、中には復元されないまま長年放置される個所（ルート）も出るのではないかと懸念しています。

10. 歩く中で様々な事が頭を過^{よぎ}って行ったが、その時の感想をつたない短歌に

その1；平安時代後期に、熊野に御幸した後白川上皇が編纂した「梁塵秘抄」^{りょうじんひしょう}に次の有名な歌があるそうです。

「熊野へ参るには、紀路と伊勢路のどれ近し、どれ遠し、広大無辺の道なれば、紀路も伊勢路も遠からず」

これに習い、私の戯^{たわむ}れの詩です。

“熊野へ参るには、峠を越えのどれ緩^{ゆる}し、どれ険^{ゆる}し、廣大無辺の道なれば、どこの峠も皆^{みな}有り難きかな”

その2；

“熊野路を30日^{ひとつき}かけて歩き足り 胸にローソク震災供養”

“熊野路の歴史の道に浸^{ひた}りきり 幽玄満ちた謎の祈り場”

“紀伊の道を交差^{クロス}で駆けた長き旅 いつも^{ごこう} (※) 五香に包まれ賜う”

(※) 密教で、修法の時などに用いる5種の香のこと。

“桜花^{つぼみ} 蕾が開き移り行く 吾が命ぞと重ね行く旅”

“変り行く時代の波で今は廃れ 旅籠^{はたごおかみ}女将のしわが語りぬ”

“おととと石に躓^{つまづ}き眼が覚める 霊場^{むそう}夢想^{いのり}で祈りの最中^{さなか}”

“公家方が上り下りし裾^すを擦り 布切れあり処^かを探して歩く”

“上皇の着物香りが岩に擦れ 探し求めて神に問い掛け”

“急坂^{きゅうさか}を歩き歩いて垢^{あか}落とし 真^{まこと}の禊^{みそぎ}か神が判^わかつ”

“天照皇大神大日如来と手を繋ぎ 私と闊歩^{あまてらす}熊野の道を”

“遠くから津波の傷に頭^{こうべ}垂れ 鈴を絶やさず供養の祈り”

“八百万の神仏揃^{やおよろず}う紀伊の山 ここで祝詞^{のりと}がそこで心経”

(end)

⑤ 2011 (平成23)年「旧熊野古道 (+旧西高野街道)」スルーハイク (29連泊30日間) の全踏破歩行記録 ----- 移動行程集計表

< 携行したガーミン社の「オレゴン機 (地図搭載、GPS軌跡&タイムスタンプ機能)」と「カシミール3D(フリーソフト)」により集計 >

「大香ブランド老魂サブタイトル」は ~ 天照大御神・大日如来・私の天地人熊野巡拝行 ~

| 累積 日数 | 行動月日 | | 街道の歩行区間 通過主要地点・旧宿場名・始終点 | 実歩行 距離 km | 歩行時間 | | | | 平均時速 f=a/e | 天候 | 備考 | 宿泊先 (略称) | | |
|----------|-------|-----|---------------------------------|-----------------|-------------|-------------|--------------|------------|---------------|------|------------------|-----------|--------------|-------------|
| | 月 | 曜日 | | | 歩行開始 時:分 | 歩行終了 時:分 | 歩行時間 時間:分 | 時間換算 時間 | | | | 所在地 | 名称 | |
| | 日 | 日 | | | b | c | d=c-b | e | | | | | | |
| 前日 | 4月5日 | (火) | ---- | ---- | | | | | | | 伊勢神宮外宮・内宮参拝(前日泊) | 三重県伊勢市 | 旅館 麻吉 | |
| | | | | | | | | | | | | | スタート | |
| 1日目 | 4月6日 | (水) | [伊勢路;伊勢神宮内宮(S)]→女鬼峠→大台町佐原 | 45.8 | 5:40 | 17:00 | 11:20 | 11.3 | 4.0 | 晴れ | | 三重県大台町 | 旅館大黒屋 | |
| 2日目 | 4月7日 | (木) | 〃; (前終点) → 荷坂峠→紀北町紀伊長島 | 39.4 | 6:10 | 16:50 | 10:40 | 10.7 | 3.7 | 晴れ | | 三重県紀北町 | 旅館ひさご家 | |
| 3日目 | 4月8日 | (金) | 〃; (前終点) → 始神峠→紀北町相賀 | 26.7 | 7:10 | 15:20 | 8:10 | 8.2 | 3.3 | 曇り後雨 | | 三重県紀北町 | りぼん旅館 | |
| 4日目 | 4月9日 | (土) | 〃; (前終点) → 馬越峠→八鬼山→尾鷲市三木里 | 21.8 | 7:20 | 16:30 | 9:10 | 9.2 | 2.4 | 曇り | | 三重県尾鷲市 | 民宿 岡崎屋 | |
| 5日目 | 4月10日 | (日) | 〃; (前終点) → 逢神坂峠→松本峠→熊野市 | 31.0 | 5:00 | 16:30 | 11:30 | 11.5 | 2.7 | 晴れ | | 三重県熊野市 | BHみはらし亭 | |
| 6日目 | 4月11日 | (月) | 〃; (前終点) → 花の窟神社→熊野速玉大社→新宮市 | 34.1 | 7:30 | 17:10 | 9:40 | 9.7 | 3.5 | 晴れ | 熊野速玉大社参拝 | 和歌山県新宮市 | H光洋イン | |
| 7日目 | 4月12日 | (火) | 中辺路; (前終点) → 大狗峠→那智勝浦町 | 19.3 | 7:10 | 12:50 | 5:40 | 5.7 | 3.4 | 晴れ | | 和歌山県那智勝浦町 | BH勝浦 | |
| 8日目 | 4月13日 | (水) | 〃; (前終点) → 熊野那智大社→大雲取越→小和瀬 | 23.3 | 5:50 | 14:55 | 9:05 | 9.1 | 2.6 | 晴れ | 熊野那智大社・青岸渡寺参拝 | 和歌山県熊野川町 | 小口自然の家 | |
| 9日目 | 4月14日 | (木) | 〃; (前終点) → 小雲取越→熊野本宮大社 | 20.0 | | | | | | | 大斎原・熊野本宮大社参拝 | 奈良県十津川村 | テント設営 (泊) | |
| | | | 小辺路; (前終点) → 果無峠 | 11.8 | | | | | | | | 果無観音堂 | | |
| | | | 小計 | 31.8 | 6:30 | 17:50 | 11:20 | 11.3 | 2.8 | 晴れ | | | | |
| 10日目 | 4月15日 | (金) | 小辺路; (〃) → 三浦峠→五百瀬 | 28.2 | 6:40 | 15:50 | 9:10 | 9.2 | 3.1 | 曇り後雨 | | 奈良県十津川村 | 農家民宿政所 | |
| 11日目 | 4月16日 | (土) | 〃; (前終点) → 伯母子峠→野迫川村大股 | 16.2 | 7:10 | 13:00 | 5:50 | 5.8 | 2.8 | 曇り | | 奈良県野迫川村 | 民宿かわらび荘 | |
| 12日目 | 4月17日 | (日) | 〃; (前終点) → 薄峠→高野山 | 22.3 | | | | | | | 高野山参拝 | 和歌山県橋本市 | ゆの里 このの | |
| | | | 西高野街道; (前終点) → 不動坂→橋本市学文路 | 17.6 | | | | | | | テント手放し | | | |
| | | | 小計 | 39.9 | 6:10 | 17:20 | 11:10 | 11.2 | 3.6 | 晴れ | | | | |
| 13日目 | 4月18日 | (月) | 西高野街道; (前終点) → 紀見峠→河内長野 | 27.9 | 7:20 | 14:50 | 7:30 | 7.5 | 3.7 | 晴れ | | 大阪府河内長野市 | 旅館 八重別館 | |
| 14日目 | 4月19日 | (火) | 〃; (前終点) → 堺市 | 23.2 | 7:10 | 14:20 | 7:10 | 7.2 | 3.2 | 晴れ | | 大阪市天満橋 | 大阪キャッスルホテル | |
| 15日目 | 4月20日 | (水) | 紀伊路;天満橋→堺市西区 | 30.3 | 5:40 | 15:00 | 9:20 | 9.3 | 3.2 | 晴れ | 中間地点通過 | 大阪府堺市 | BHなか | |
| 16日目 | 4月21日 | (木) | 〃; (前終点) → 泉佐野市 | 26.6 | 6:00 | 13:10 | 7:10 | 7.2 | 3.7 | 晴れ | | 大阪府泉佐野市 | Hシティホテルユタカ | |
| 17日目 | 4月22日 | (水) | 〃; (前終点) → 雄ノ山峠→布施屋 | 31.7 | 5:40 | 14:00 | 8:20 | 8.3 | 3.8 | 曇り後雨 | | 和歌山県岩出市 | BH岩出 | |
| 18日目 | 4月23日 | (木) | 〃; (前終点) → 汐見峠→藤白坂→拝ノ峠→有田川 | 29.0 | 6:00 | 15:10 | 9:10 | 9.2 | 3.2 | 雨 | | 和歌山県有田市 | Hサンシャイン | |
| 19日目 | 4月24日 | (日) | 〃; (前終点) → 糸我峠→御坊市 | 36.2 | 5:40 | 16:20 | 10:40 | 10.7 | 3.4 | 晴れ | | 和歌山県御坊市 | Hフォレストイン御坊 | |
| 20日目 | 4月25日 | (月) | 〃; (前終点) → 榎木峠→みなべ町 | 34.5 | 5:40 | 15:35 | 9:55 | 9.9 | 3.5 | 晴れ | | 和歌山県みなべ町 | 国民宿舎みなべ | |
| 21日目 | 4月26日 | (火) | 〃; (前終点) → 田辺市 | 9.4 | | | | | | | | 和歌山県上富田町 | 民宿 加茂 | |
| | | | 中辺路; (前終点) → 上富田町下鮎川 | 21.6 | | | | | | | | | | |
| | | | 小計 | 31.0 | 7:10 | 15:40 | 8:30 | 8.5 | 3.6 | 晴れ | | | | |
| 22日目 | 4月27日 | (水) | 中辺路; (前終点) → 滝尻→十丈峠→逢坂峠→近露 | 24.7 | 6:20 | 15:10 | 8:50 | 8.8 | 2.8 | 後雨 | | 和歌山県田辺市 | 旅館 月の家 | |
| 23日目 | 4月28日 | (木) | 〃; (前終点) → 三越峠→発心門→熊野本宮大社→本宮町 | 26.6 | 6:10 | 15:40 | 9:30 | 9.5 | 2.8 | 晴れ | | 和歌山県田辺市 | 宿 蒼空げすとほうす | |
| 24日目 | 4月29日 | (金) | 〃; (前終点) → 万才峠分岐点 | 7.6 | | | | | | | | 三重県紀和町 | 民宿 愛寿 | |
| | | | 伊勢本宮道; (前終点) → 万才峠→新宮市志古→楊枝 | 11.7 | | | | | | | | | | |
| | | | 小計 | 19.3 | 7:05 | 14:20 | 7:15 | 7.3 | 2.7 | 晴れ | | | | |
| 25日目 | 4月30日 | (土) | 伊勢本宮道; (前終点) → 風伝峠→横垣峠→花の窟神社 | 38.3 | 5:00 | 14:40 | 9:40 | 9.7 | 4.0 | 晴れ | | 三重県熊野市 | BHみはらし亭 | |
| 26日目 | 5月1日 | (日) | 大辺路;田辺市 (紀伊田辺)→白浜町富田橋 | 14.1 | 9:00 | 12:50 | 3:50 | 3.8 | 3.7 | 曇り後雨 | | 和歌山県田辺市 | H田辺ステーションホテル | |
| 27日目 | 5月2日 | (月) | 〃; (前終点) → 富田坂→仏坂→すさみ町周参見 | 22.8 | 7:00 | 14:50 | 7:50 | 7.8 | 2.9 | 曇り | 「安居の渡し場」舟利用 | 和歌山県すさみ町 | 民宿 一樂 | |
| 28日目 | 5月3日 | (火) | 〃; (前終点) → 長井坂→串本町田子 | 26.1 | 7:10 | 15:20 | 8:10 | 8.2 | 3.2 | 晴れ | | 和歌山県串本町 | 民宿 久美屋 | |
| 29日目 | 5月4日 | (水) | 〃; (前終点) → 重畳山→地藏峠→串本町佐部 | 31.3 | 6:10 | 14:50 | 8:40 | 8.7 | 3.6 | 晴れ | | 和歌山県串本町 | ホテルまるやま | |
| 30日目 | 5月5日 | (木) | 〃; (前終点) → 八郎峠→[那智勝浦町の補陀洛山寺(G)] | 17.6 | 5:10 | 9:50 | 4:40 | 4.7 | 3.8 | 晴れ | | | ゴール | |
| | | | | | | | | | | | | (最終日泊) → | 和歌山県新宮市 | ステーションホテル新宮 |

| | |
|-------------|------|
| 合計 | 849 |
| 1日平均 | 28.3 |
| ・各古道ごとの歩行距離 | km |
| 伊勢路 | 199 |
| 中辺路 | 143 |
| 小辺路 | 79 |
| 紀伊路 | 198 |
| 大辺路 | 112 |
| 伊勢本宮道 | 50 |
| 西高野街道 | 69 |
| 合計 | 849 |

| | | |
|-----|------|------|
| 8.6 | 3.3 | 24.3 |
| 時間 | km/h | km |

(注1) ルート沿い計画距離に対して実歩行距離が、120km (1日当り4km程) 長くなった理由は、山道の登降 (沿面距離)、神社・仏閣立寄り等のジグザク歩き方の影響による。

(注2) 距離と時間の集計は、旧街道・古道沿い関係のみであり、長時間 (片道15分・500m程度超過) 街道を離れた場合などの移動ロスを除いて補正している。

(注3) 最終日翌日の5/6 (金) も、スタート時と同様に伊勢神宮に赴き、外宮・内宮に赴き、無事を報告しお礼参拝を行った。